

令和7年度 奈良県がん診療連携協議会 PDCAサイクルシート

施設名（ 近畿大学奈良病院 ）

現状・課題	診断後治療前のがん患者が、がん相談支援センターを利用する体制を構築する方法として、今までの活動からリーフレットの配置や各診療科等に直接周知する方法では効果は限定的で、がん患者に医師や看護師等人の手で個別に案内する方法が有効であると認識している。しかし、医師や看護師がすべてのがん患者に徹底して案内することの困難さや人員の不足が課題となっている。今年度の活動として、外来診療の流れの一つとしてがん相談支援センターを案内する体制の構築を開始した。また、専任の認定看護師が外来診療のICに同席する体制を整え、診断後治療前のがん患者にがん相談支援センターを案内する体制となっている。
目標	診断後治療前のがん患者の相談件数の増加
目標値	診断後治療前のがん患者の相談件数 400件
担当部署	がん相談支援センター

Plan (計画)	【外来看護師との連携】 ①外来看護師が簡易的にがん相談支援センターを案内できるようにがん相談支援センターの案内用紙を作成する。 ②患者支援センター(入院受付を含む)や外来部門の看護師から、がんと診断された患者をがん相談支援センターに案内する取り組みをおこなう。 ③多診療科が参加する臓器別がんボードにがん専門相談員が参加し、がんと診断された個別のケースに対してがん相談支援センターを案内する活動をおこなう。 ④従来から実施している専門・認定看護師によるIC同席時に、必ずがん相談支援センターに「治療開始前に訪問していただくようにしている」と案内する。
Do (実行)	がん相談支援センターの相談件数：1097件 4月～12月 ①外来看護師が簡易的にがん相談支援センターを案内できるようにがん相談支援センターの案内用紙を作成した。 ②看護部外来部門の所属長の活動として、患者支援センター（入院受付を含む）や外来部門の看護師からがん相談支援センターを案内できるよう、患者の外来診療スケジュールにがん相談支援センターを加える体制を整えた。（8月から実施） ※今後は電子カルテ内で対象患者の外来診療スケジュールにテンプレートとして入力するよう進めていく予定。 >人の手を介して案内された件数：236件のうち診断前は97件（41％）8月～12月 ③多診療科が参加する臓器別がんボードにがん専門相談員が参加し、個別のケースでがん相談支援センターを案内した。（9月から実施） >臓器別がんボードを通じて主治医から案内され相談対応につながった件数：9件 6月～12月 ④より多くのICに同席できるよう専任の認定看護師を配置し、診断後治療前のがん患者等にご案内する体制を整えた。 >ICの同席でがん相談支援センターを案内して相談対応につながった件数：33件 11月～12月
Check (評価)	①がん相談支援センターの案内用紙はほとんど利用されなかった。利用する機会が確立していないことが要因と考えられる。 ②看護部所属長の活動により、外来部門の看護師からがん相談支援センターを案内され相談につながっているケースは多くなっている。案内直後に利用されなくても、後日に来られる患者もおられるため、活動は有効であると考え。外来診療スケジュールにがん相談支援センターへの訪問を組み込むことで、がん相談支援センターの相談件数の増加につながった。今後、がん診療を行うすべての診療科の外来診療スケジュールに組み込むことで、さらなる相談件数の増加が期待できると考える。 ③多診療科が参加するがんボードにがん専門相談員が参加することで、がん相談支援センターの利用の必要性が主治医と共有でき、相談対応につながったケースがあった。がん専門相談員が継続して参加していくことで、参加した他診療科医師のがん相談支援センター利用の有用性の認知が進むことも期待できると考える。医師と直接コミュニケーションを図る機会ともなっている。 ④新たに専任の認定看護師がICに同席できる体制としたことで、相談対応につながるケースが増えている。②の取り組みも併せておこなうことで、がん相談支援センターを案内する体制構築につながると考えられる。
Action (改善)	・上記の活動（①②③④）を継続する。 ・相談件数が少ない診療科については、再度、診療科の外来看護師に案内への周知をおこなうとともに、案内不十分となっている理由を聞き取り、それに対する改善を図る。